

高・大・一般 漢字（楷書B）

※楷書A、Bは段級をとわず両方出品も可。

宮澤 薦季直表
(鍾繇)
②



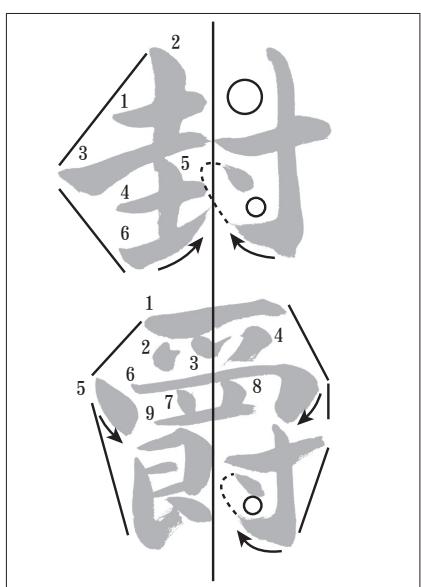
〈解説〉

今日の私達が捉える楷書は、点画の起筆や送筆、收筆をトン、スー、トンといった規則正しいリズムで書き、高度な理論に基づく構築性の高い字形に組み立てたものを指すと思われます。一方で、「薦季直表」は、用筆や構築性は未完成でありながら純朴で柔らかみのある表情を醸しています。これを「古意」とか「韻致」といったことばで表現することもあります。書の表現は無限です。「薦季直表」の臨書を通して楷書にも豊かな表現方法があることを学んでみましょう。

〈學習上の留意点〉

「封」：三画目を左に長く突き出し、扁平な字形を形成しています。旁部の「寸」の一画目は、偏の「圭」の三画目に呼応するように長めに「すくう」ような方向で書いています。二画目の縦画は力むことなく、やわらかく下ろして、内部の空間を広くとるようにはねています。

「爵」：上部の一～四画目までは軽く書き、次の五～九画目は大胆に横広に書きましょう。下部の部分は小さくまとめると字形の收まりが良くなるでしょう。



高・大・一般
仮名入門

辻
眞智子

今月は、筆管を立てて書くことに留意しながら取り組んでみましょう。

仮名は、直筆で書くことが基本になります。上達するに従い、やや側筆そくひつにして軽く俯仰ふきょうを加え、変化をつける学びに入りますが、この講座は“入門”です。まず、直筆で土台をしつかりと固めていきた
いと思います。

墨…必ず磨墨する。(和墨が望ましい。)
紙…滲みの少ない半紙。(改良半紙に限らず、ローレルのきいた練習用の機械漉き半紙等でよい。)
筆…五号ぐらいの筆。(初心者は兼毫筆が書きよい。)

東・知・里

東・知・里・怒・累・越

- ・①初めは、一文字一文字を手本なしで書けるようになるまで、習熟度を上げていく。

- ②次に二文字・三文字・六文字と渴筆になるまで墨継ぎをしないで書いていく。

らだらと
けないで
瞬止める
丸くなり
過ぎない
手首を回さず
直筆で
押さえな

のりの
うらの
うらの

スビードを
つくる
折る
——
弾力を使
い
リズミカルに
——
突くよう
に当てる

て
る
カ
リ
ズ
ミ
こ
ミ

、しないで
ようやく
草書を書く
当ててリズムをつけ、「心」の
弾力を使い
リズムをつける
深く折り返す

、しないで
ようやく
草書を書く

△のところ軽く止める
▲のところ折り返す

、しないで
ようやく
草書を書く

弾力を使い
リズムをつける

深く折り返す

29

2022.5 月刊「書写書道」

選択毛筆〔5月27日(金)必着〕

(ぬ)	奴	ヌ	(と)	止	ト
努	努	ヌ	登	ト	ト
			度	ト	ト
(る)			(ち)		
留	留	ル	地	チ	チ
流	流	ル	遅	チ	チ
類	類	リ	千	チ	チ
(を)			(り)		
遠	遠	リ	利	リ	リ
乎	乎	リ	梨	リ	リ
緒	緒	リ	李	リ	リ

The image displays six Chinese characters arranged in two columns and three rows, all written in a fluid, expressive cursive script (caoshu). The characters are: '也' (yě), '之' (zhī), '于' (yú), '而' (ér), '之' (zhī), and '也' (yě). Each character is composed of bold, dark ink strokes that vary in thickness and direction, creating a sense of movement and fluidity.